

曾比奈のおしゃもつさん

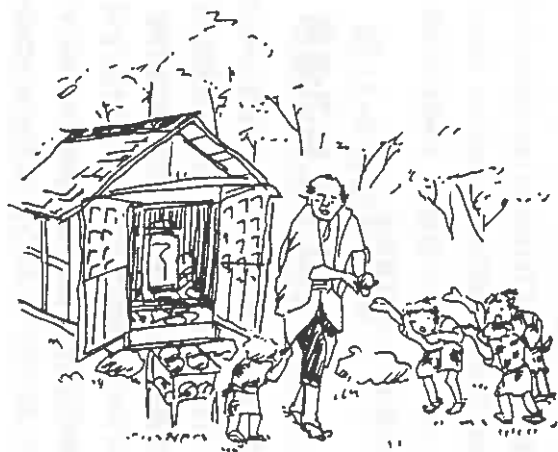
昭和六十一年十二月五日号

曾比奈では、以前、十二月十五日になると子供たちが、「おしゃもつさん」に集まり、赤飯を食べました。この赤飯を食べると風邪を引かないと言われていたからです。

みんなで食べたおもち

大淵・曾比奈の寂しい道端に「おしゃもつさん」と呼ばれている小さなほころががあります。

みんなのお父さんやお母さんが子供のころのことです。十二月十五日の夕方になると、「みんなおいで、おしゃもつさんのおもちこだよ。」



と噂おじさんの声に、どこの子も急いでおしゃもつさんのほこらの前に集まりました。

町内会のおじさんが、お供えしてあつた赤飯を少しずつ、子供たちに分けてくれるのでした。

子供たちは分けてもらつた赤飯を大事においしく食べました。

子供の風邪の神様

おしゃもつさんは子供の風邪の神様だからです。おしゃもつさんからいただいた赤飯を食べると、ことし一年、風邪を引かないし、ひいてもすぐ治ると言われていたのです。でも、「この風邪は」おもつこだよ、みんなおいで、「と噂ひかけても、もらいに来る子がなくなつたので、いつとはなして、おもつこも供

えなくなり、おまつりもやらなくなつてしまいました。

けれども、「どうか、この子が風邪を引きませんように」と、お祈りする人が今もいるらしく、時々、十田玉が二つ三つほこらの前に供えられています。

おもつこを復活したい

服部源一郎さん（八王子本町）

八王子本町の服部源一郎さんは、「おしゃもつさんはずっと昔からあつた神さんです。二十年前くらい途絶えていたおもつこ配りを、二三年前やつてみたけど子供が集まりませんでした。いつか復活させたいね」と語つてくれました。